

我、さるべきにやありけむ、このをのこの家
ゆかしくて、ゐてゆけと言ひしかば、ゐて來たり。
いみじく、ありよくおぼゆ。このをのこ罪し
れうぜられば、我はいかであれと。これもさきの
世に、この国にあとをたるべき宿世こそありけめ。
はや帰りて、おほやけにこのよしを奏せよ。

『更級日記』『竹芝寺』より